

2011年度活動テーマ  
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。  
**発酵と復興**

常総生活協同組合  
発行/副理事長 大石  
tel:050-5511-3926

# COOP-JOSO News Letter

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故汚染から半年  
2011年秋の「せいきょう強化月間」

## 【強化月間テーマ】 復興と発酵

### ●福島に思いをよせて

- ・ふくしまの子供たちに綿ふとんを
- ・福島の農水産物検査の支援体制
- ・復興自立に奮闘する現地支援

### ●放射能に負けない身体づくり

- ・発酵食品で基礎免疫力アップ!
- ・身体を動かし代謝を高めて放射能排泄
- ・元気に遊べる場所づくり・除染活動

#### 【今週の「復興」応援企画】

- (宮城県)「塩蔵わかめ(昨年産)」300g まるたか水産 (別チラシNo.450 宮城県石巻市)
- (千葉県)「荒井さんの新米もち米 ひめのもち」2kg (カタログ No.22 放射能不検出)

#### 【今週の「発酵食品」】

- 「玄米酒粕」(寺田本家 カタログP8 No.226)
- 「純米酒」(寺田本家 カタログP12 No.328)
- 「国産丸大豆 寒仕込み醤油」(カタログP11 沼屋本店) お試しミニボトルも企画
- 「料理酒 蔵の素」(カタログ表紙 No.13 福島・大木代吉商店) 別チラシでも解説あり

#### ●9/19(月)13:30~東京・明治公園へ 原発にさようなら5万人集会

「常総生協」の青い旗を探して下さい。集会後、パレードもあります。

#### ●脱原発署名集約中! まだ間に合います。用紙が不足の場合は生協・担当まで

### コットンボール

## 綿毛

## 綿実



綿実(綿)は牛のエサになります。良質な綿実油を含み、乳脂肪分を高め牛の夏バテも予防。胃に入ると表面の毛の繊維で微生物のすみかにも。

川亀ふとん店さん

鈴木牧場さんへ



8/30 綿繰り娘と理事たちで川亀ふとん店訪問



8/30 綿実を鈴木牧場さんに。牛のエサになります。



#### 可愛いお布団待っててネ!!

被災地の皆様へ  
今回の被害を受けられた方々に家族共々心からお見舞い申し上げます。

毎日不安な日々を送られていることと存じます。この度、生協さんからのご要望で、乳幼児、そしてこれからお生まれる新生児の皆様に手作り綿をお預かりして、ベビー布団を心を込めて作らせて頂きます。ゆっくり睡眠をとって、元気なお子様へ生長して頂きたいと思っております。仕上がった時には、ぜひ被災地に届けてあげたいと思っております。

(有)川亀ふとん店 倉持道夫、良枝より



川亀ふとん屋さん、機械も50年来使っているという歴史を感じる工場。手動で綿を紡いだ私たちの綿をお布団にしてもらうにはぴったりの場所だとありがたく感じました。

鈴木牧場では、牛さんたちもかわいかったけど、鈴木さんの天ぷら油などの廃油による自家発電の説明に驚き、「自家発電の時は東電の電気は使っていないんだ」と話されるのを聞いて、放射能汚染のために大事に育てた牧草を廃棄しなくてはならなかった酪農家の叫びのように思えました。

川亀さんも、鈴木さんも、自分たちの仕事に誇りを持って生き生きと働いていらっしやる姿が心に残りました。

(久木元)

支え合う精神と絆の精神を綿に折り込み、未来ある子供たちに願いを込めて

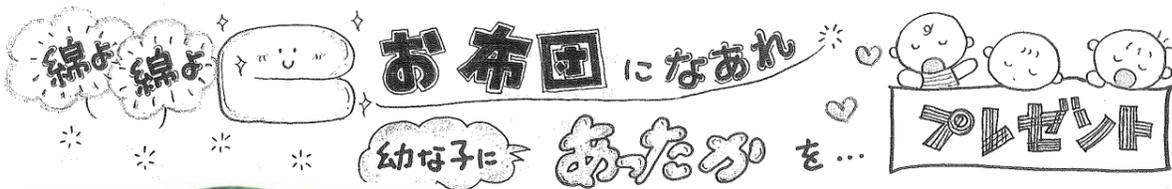
綿繰りの作業を返して、皆様の交流の輪が更に広がりました。支え合う精神と絆の精神をたっぷりこの綿の中に織り込みました。未来ある子供たちに願いを込めて、是非、このあたたか〜をお届けしたいと思っております。賢い、心豊かで、健康に……。このお布団の中で沢山の夢を見てください。

-植原 幸子-

Handwritten signature and text: 川亀ふとん店 倉持道夫

【福島の赤ちゃんたちに！手作りの綿布団を】

みんなで回したワタ繰り作業の綿は  
ふわふわ、とんとん整えられて、  
あったか～な心も包んで、もうすぐ福島へ



今盛りの  
ワタの花



あいコープふくしまのお母さんたちと共に、常総市の川亀ふとん店にて

○手作りのワタ布団を福島の子供たちに

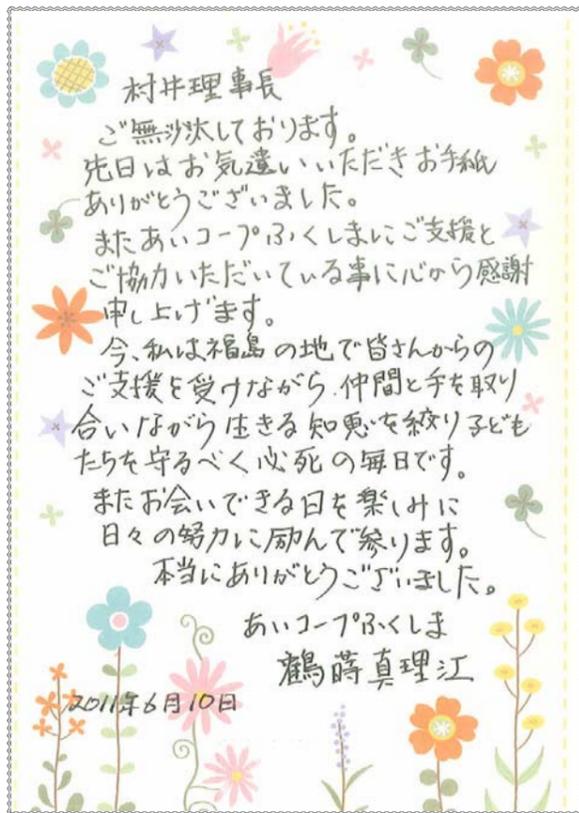
4月に「被災地の子供に綿布団を送ろう」とはじまった、「ワタくり」作業(コットンボールから綿毛と種を分離する作業)。

組合員有志が毎日生協に集い、作業に心と力を込めて7/5、ようやく7kgの綿が出来上がり、呼びかけの「おらコットンつくば」、市民ボランティアのみなさんの分とともに合計100kgを常総市の川亀製綿さんに。

9月7日、送り先の「あいコープふくしま」の理事さんたちが、「お布団のふるさどを見たい！」「綿くりに気持ちを込めて下さったみなさんに会いたい！」と訪ねて来られ、綿くり作業をしてくれた組合員さんとごいっしょに綿畑やふとん屋さんを訪ねながら交流しました。



つくば市の  
ワタ畑にて



4月、「母乳調査」呼びかけと、「まだまにあうのなら・福島緊急現地集会」に、あいコープさんを訪ねた時のお礼のお手紙。

○気持ち寄せてくれて…ありがとう。

ワタ畑の見学を終えて、昼食の交流会の時には、あいコープふくしまの理事さんたちからは、「あんな時、誰も来ない時に、いち早く福島に来てくれて、組合員の母乳の調査からめんどうみて下さり、そしてみなさんがこんな手間をかけワタ繰りして下さいって手作りのお布団を送って下さるなんて…」

「茨城の仲間の生協のみなさんが、福島の私たちに気にかけて下さっていること、不安の中で、気持ちがつながって、自分たちも頑張ろうという気持ちになれて…」

「いつも先を見越したニュースも送ってくださりありがとうございます。発酵食品食べて、放射能にうちかつ健康をつくろう！」と、大いに元気を貰っています。」

「はじめて綿の花を見ました。神秘的でした綿繰りもはじめて。来てよかった！」と。

「保育園の先生が、子供は和綿の布団で寝ると、本当にぐっすり眠ってよく育つよ、って」との話しに、「もう一度、私も和綿布団で育ち直せたら」と笑ひも。



ワタ畑にて(上)  
→福島の理事さんに綿繰りを伝授する常総綿娘(右)

○組合員有志、3ヶ月かかり7kgのワタ繰り



【綿繰り日誌より】

- いろいろ初体験、赤ちゃんのお布団ができるのが楽しみです。誰でもできるので仲間増えるといいな。(久木元)
- いつの間にかくるくる回すのだけで種がとれて、不思議な体験。早くお布団ができるといいな(植原)
- 綿の種類もたくさんあることを知りました。和綿はどんな仕上がりになるのかな？(菅原)
- 暑い中のゴミ取り、綿繰り大変でしたが、ベビーの布団になると一段と気を入れられました。今日は川亀さんでの体験、ありがとうございました。昔、母が布団の綿入

綿布団を福島の生協仲間の  
子供たちに！



○きっかけとなったあいコープふくしま  
総代会での組合員さんの発言

「震災後に妊娠がわかりました。2歳の息子と一緒に避難も考えましたが、家族が離れると精神的にも大きなダメージとストレスを抱えると思い、家族ひとつになって福島で生活することに決めました。...

「つわり」で、今までは生協の講演会など行きたくても行けませんでした。安定期に入り、先日久しぶりに郡山地区交流会に参加することが出来ました。皆さんとおいしい物を作って食べて、息子は託児でたっぷり遊び、親子で楽しい時間を過ごしました。そこで今の私の状況を話した後、参加した方々から様々な声かけ、アドバイスをいただき、涙が出るほど嬉しく、又感謝の気持ちで一杯になりました。

これからも、わたしはあいコープの安心・安全な食べものをいただき、避難しなくても元気な赤ちゃんを出産しました！と証明できるように頑張ります。」

れをしていたのが、なつかしく思い出せました。(小松田)  
○7/15(金)、最終日600g。ヤッター！！これで完了です(植原)。やり遂げてう・れ・し・い・です。これで生協にも静かな夏が(久木元)。途中ダウンして綿繰りできない時がありましたが、最終日参加できて嬉しいです。皆さんお疲れ様でした。赤ちゃんの布団ができて嬉しいです(池松)。

○地元常総市のふとん屋さんも協力

この綿を使って、常総市で慶応年間から160年続く「川亀製綿」さんが綿打ちして「綿ふとん」に仕立ててくれます。10月には子供用布団20組が  
できあがり、もうすぐ福島に。



常総生協からワタを預かる  
川亀製綿の倉持さん夫婦